

# 幼稚園教職課程履修の手引き

(2022 年度入学生から適用)



エリザベト音楽大学

Elisabeth University of Music

音楽学部 音楽文化学科 幼児音楽教育専修



## 幼稚園教職課程履修の手引き 目次

1. はじめに	1
(1) 本学の教員養成における目標	1
(2) 教職課程で学ぶにふさわしい学生像	1
(3) 育成を目指す教師像	2
2. 幼稚園教職課程の履修	3
(1) 幼稚園教諭免許状取得のための必要単位	3
(2) 履修単位確認表	5
(3) 履修カルテについて	7
3. 幼稚園教育実習	8
(1) 幼稚園教育実習Ⅰ・Ⅱ 実施要項	8
(2) 幼稚園教育実習の意義と目的	10
(3) 幼稚園教育実習の内容	12
(4) 幼稚園教育実習Ⅰ・Ⅱの過程	13
(5) 実習記録について	14
(6) 実習の心得	17
(7) 幼稚園教諭一種免許取得までのスケジュール	20
4. 付録（書式一覧）	21
(1) 実習日誌	22
(2) 指導案	25
(3) 履修カルテ	28
(4) 自己評価シート	32

# 1. はじめに

## (1) 本学の教員養成における目標

---

本学は、教育の理念を「教養・実力・慈愛のある音楽家の育成」に置き、音楽芸術および音楽教育に関する理論、技能および実践の教授研究により、真に芸術を愛し、「美」の追求に真摯な人材を養成するという目標を掲げている。

音楽単科大学ではあるが、創立以来、音楽教育において優秀な人材を育て、数多くの教員を輩出し地域に貢献している。本学の教育養成における目標は以下のとおりであり、それらの資質・能力を備えた教師の輩出を目的とする。

- ・ 音楽教育に関する専門的知識と音楽の技術について、確かな資質・能力をもつ教員の養成につとめる。
- ・ 高い倫理観と人権意識を基盤とした、質の高い指導力を有する教員の養成につとめる。
- ・ 本学の教育の根幹となるキリスト教精神に基づき、慈愛あふれる行動をもって音楽教育をとおして世界の平和に貢献できる教員の養成につとめる。

## (2) 教職課程で学ぶにふさわしい学生像

---

- ・ 幼児音楽教育に対して深い関心があり、保育について自ら学ぼうとする主体性と、他者と協力して学び合う協調性を持っている。
- ・ 自らの音楽的感覚と技術を保育に活かし、音楽と保育をとおして社会に貢献しようとする意欲がある。

### (3) 育成を目指す教師像

---

本学の音楽文化学科幼児音楽教育専修では、教職課程教育の目的・目標を踏まえ、育成を目指す教師の資質・能力を設定している。

#### [幼稚園教諭第一種免許]

##### 1 使命感・責任感・教育的愛情

- ・ 教育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、共に成長しようとする姿勢が身に付いている。
- ・ 高い倫理観と規範意識、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の責務を果たすことができる
- ・ 幼児の成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動することができる。

##### 2 社会性・対人関係能力

- ・ 教員としての職責や義務への自覚に基づき、目的や状況に応じた適切な言動をとることができる。
- ・ 組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行することができる。
- ・ 保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができる。

##### 3 幼児理解・学級経営

- ・ 幼児に対して公平かつ受容的な態度で接し、豊かな人間的交流を行うことができる。
- ・ 幼児の発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができる。
- ・ 幼児との間に信頼関係を築き、学級集団を把握して、規律ある学級運営を行うことができる。

##### 4 保育内容等の指導力に関する事項

- ・ 幼稚園教育要領の内容を理解し、ねらいと内容が明確になっている指導計画を立てることができる。
- ・ 幼児の発達に基づき、健康・安全に配慮した環境を構成し、教育を実践することができる。
- ・ 幼児が主体的に遊びや活動に取り組むことのできる教育を展開することができる。

## 2. 幼稚園教職課程の履修

### (1) 幼稚園教諭免許取得のための必要単位

幼稚園教職課程の免許状を取得する場合には、「学士の学位を有する」という基礎資格をそなえた上で、免許法施行規則第 66 条の 6 に定められた科目の習得と、〈表 1〉に示す最低取得単位数を満たす必要がある。(便覧より抜粋)

○免許法施行規則第 66 条の 6 の科目

- ①日本国憲法 2 単位
- ②体育 2 単位
- ③外国語コミュニケーション 2 単位
- ④情報機器の操作 2 単位

【計 8 単位】

〈表 1〉 免許状取得に必要な基礎資格および最低修得単位数

教育職員 免許状の種類	基礎資格	最低修得単位数		
		領域及び保育内容の指導法 に関する科目	教育の基礎的理解に 関する科目等	大学が独自に設定する科目
幼稚園教諭 一種免許状	学士の学位を有す ること。(注)	16	21	14

【計 51 単位】

最低修得単位のそれぞれの具体的な科目は、以下の〈表 2〉〈表 3〉の通り。

〈表 2〉 領域および保育内容の指導法に関する科目 (A) 16 単位以上

免許法施行規則に定める 科目区分等	領域に関する 専門的事項	保育内容の指導法に関する科目
音楽文化学科 幼児音楽教育専修 本学授業科目	○幼児と健康	○保育内容の指導法(健康)
	○幼児と人間関係	○保育内容の指導法(人間関係)
	○幼児と環境	○保育内容の指導法(環境)
	○幼児と言葉	○保育内容の指導法(言葉)
	○幼児と音楽表現	○保育内容の指導法(表現)
	○幼児と造形表現	○モンテッソーリ指導法Ⅰ ○モンテッソーリ指導法Ⅱ

○印は必修

〈表3〉 教育の基礎的理解に関する科目等 (B) 21 単位以上  
 大学が独自に設定する科目 (C) 14 単位以上

免許法施行規則に定める科目区分等		最低修得 単位数	左記に対応する本学開設授業科目		
科 目	各科目に含めることが必要な事項		授業科目	必修	選択
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想  教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校への対応を含む。) 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	10	幼児教育原理	2	
			保育史	2	
			教育史 *		2
			教師論	2	
			(「幼児教育原理」に含む。)	/	
			発達心理学	2	
			教育心理学 *		2
			特別支援教育概論	1	
幼児教育課程論	2				
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)  幼児理解の理論及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	4	幼児教育方法論	2	
			育児支援と指導法 *		2
			幼児教育の方法と技術	2	
			幼児理解と保育相談	2	
教育実践に関する科目	教育実習  教職実践演習	7	教育実習事前事後指導(幼) 教育実習 I (幼) 教育実習 II (幼)	5	
			教職実践演習(幼)	2	
大学が独自に設定する科目			小児保健	2	

\*印より2科目選択必修

(A) + (B) + (C) = 51 単位以上

※大学が独自に設定する科目 (C) は、最低修得単位数が 14 単位だが、開設科目は「小児保健」の 2 単位のみとなる。不足分は、領域および保育内容の指導法に関する科目 (A) と教育の基礎的理解に関する科目等 (B) の余剰分が充てられる。

## (2) 履修単位確認表

「(1)幼稚園教職課程の履修について」の履修単位をまとめたのが、下記の表である。  
履修状況を確認し、漏れなく履修すること。

### エリザベト音楽大学 幼稚園教諭一種免許状修得単位確認表(令和4年度入学生から適用)

氏名		専攻/専修		学籍番号	
----	--	-------	--	------	--

#### ■教育職員免許状施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分		本学開講科目			
科目	最低単位数	科目	選択/必修	単位数	履修確認
日本国憲法	2	日本国憲法	教職必修	2	
体育	2	体育Ⅰ・Ⅱ	教職必修	2	
外国語コミュニケーション	2	英語会話Ⅰ・Ⅱ	必修	2	
情報機器の操作	2	情報機器演習/データサイエンス入門	必修	2	
修得済み単位数/最低必要単位数					/8

#### ■領域及に保育内容の指導法に関する科目(A)

施行規則に定める科目区分等			本学開講科目			
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低単位数	科目名	選択/必修	単位数	履修確認
領域に関する専門的事項		16 本学既定:22単位必修	幼児と健康	必修	1	
			幼児と人間関係		1	
			幼児と環境		1	
			幼児と言葉		1	
			幼児と造形表現		2	
			幼児と音楽表現		2	
(情報機器及び教材の活用を含む。)	保育内容の指導法	16 本学既定:22単位必修	保育内容の指導法(健康)		2	
			保育内容の指導法(人間関係)		2	
			保育内容の指導法(環境)		2	
			保育内容の指導法(言葉)		2	
			保育内容の指導法(表現)		2	
			モンテッソーリ指導法Ⅰ		2	
			モンテッソーリ指導法Ⅱ		2	
修得済み単位数/最低必要単位数					/16	



■教育の基礎的理解に関する科目等(B)

施行規則に定める科目区分等			本学開講科目			
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低単位数	科目名	選択/必修	単位数	履修確認
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	幼児教育原理	必修	2	
			教育史	選択	2	
	保育史		必修	2		
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教師論	必修	2	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)					
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	選択	2	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		発達心理学	必修	2	
相の道徳指導、に法総関及合すび的な科徒学目指習導、時教間育等	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	4	特別支援教育概論	必修	1	
			幼児教育課程論	必修	2	
	幼児理解の理論及び方法		幼児教育方法論	必修	2	
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		育児支援と指導法	選択	2	
関教する実科践目に	教育実習	7	幼児教育の方法と技術	必修	2	
			幼児理解と保育相談	必修	2	
	学校体験活動		教育実習事前事後指導(幼)	必修	1	
	教職実践演習		教育実習Ⅰ(幼)	必修	2	
			教育実習Ⅱ(幼)	必修	2	
			教職実践演習(幼)	必修	2	
修得済み単位数/最低必要単位数						/21

■大学が独自に設定する科目(C)

科目区分	履修方法等	科目名	選択/必修	単位数	履修確認
設大定学すがる独科自目に	「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位数を超えて履修した「領域及び保育内容の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて14単位以上を修得	小児保健	必修	2	

◆「大学が独自に設定する科目」の単位数には「領域及び保育内容の指導法に関する科目」(A)又は「教育の基礎的理解に関する科目等」(B)の中から、最低必要単位数を超えて修得した単位数(小児保健を履修した場合は+2単位)を計上します。必修科目を履修した上で【(A)の単位数と(B)の単位数と(C)の単位数の合計】が51単位を超えるように履修することが、幼稚園一種免許状取得の要件となります。

【注意事項】

◇幼稚園一種免許状取得に必要な単位数は、教育職員免許法および関連法令に基づき、文部科学省による「教育職員免許状施行規則第66条の6に定める科目」「領域及び保育内容の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目等」「大学が独自に設定する科目」に分けてそれぞれ定められています。免許状取得のためにはそれぞれの区分で必要な単位を修得する必要があります。

(A)の修得済み単位(16以上)	(B)の修得済み単位(21以上)	(C)の修得済み単位(14以上)	(A)+(B)合計単位数
			= /51以上

### (3) 履修カルテ（幼）について

---

「履修カルテ」とは、教職課程の履修履歴を把握するためのものである。教職課程の学びを振り返り、将来幼稚園教諭になるにあたって、資質の向上に活かすために用いる。

#### ○履修カルテの内容

教職履修カルテは、「授業リフレクションシート」と「自己評価シート」の2種類から構成される。

##### ・授業リフレクションシート

教職に関する授業科目ごとに、「自己評価」と「今後の課題」の2点について記入するものである。

記入すべき授業科目は、「(1) 幼稚園教職課程の履修について」で示した幼稚園免許をとる上で必修となっている科目（「免許法施行規則第66条の6の科目」、「領域および保育内容の指導法に関する科目(A)」、「教育の基礎的理解に関する科目等(B)」、「大学が独自に設定する科目(C)」)すべてである。

記入はパソコンのワード、または、手書きで行う。手書きの場合、鉛筆書きは不可。ボールペン書きで提出すること。提出後、教職担当の教員がコメントを確認し、返却する。必ずファイルにとじて、なくさないよう保管すること。

##### ・自己評価シート

皆さんが教員に必要な資質能力の各項目に5段階で自己評価するものである。

「自己評価シート」もボールペンで記入し、提出する。教職担当の教員の確認を受けた後、ファイルにとじて保管すること。

#### ○履修カルテへの記入時期

「授業リフレクションシート」への記入は半期ごとに行う。各学期の終わり（理論系の試験後）までに作成し、教員の指定する提出期限までに提出する。

「自己評価シート」は年度ごとに行い、その学年の終わり（後期の理論系の試験後）に提出する。締め切り厳守。

#### ○その他

教職履修カルテ以外にも、講義資料や模擬授業等で使用した作成物など、教職に関する授業で使用した資料はすべて、ファイルに保管すること。その際に、保管している内容物が分かるよう、半期ごとに整理しておくことよい。保管した資料は、4年次後期の「教職実践演習」で使用する。

### 3. 幼稚園教育実習

#### (1) 幼稚園教育実習Ⅰ・Ⅱ 実施要綱

---

##### 1 実習目的

- ① 子どもとともに生活し、具体的な場面を通して、子どもをよく観察し、理解し、教育者としての愛情や使命感を深める。
- ② 大学で学んでいる幼児教育についての知識や理論、保育の技能や技術を、保育実践を通して体験的・総合的に理解し、実践的に応用する力をつける。
- ③ 幼稚園及び幼稚園教諭の責務、社会的役割や意義を体感し、幼稚園教諭志望者としての自覚と意欲を高める。

##### 2 履修条件

教育実習Ⅰ・Ⅱを履修するには、以下の要件を満たす必要がある。

##### ○教育実習Ⅰの履修資格

- ・セメスターごとに「履修カルテ」を作成し、必要書類を締め切り日までに提出していること。
- ・新年度の新入生／在学生オリエンテーションにすべて参加していること。
- ・教育実習Ⅰを実施する年度当初に実施される学内の健康診断を受診していること（学内の健康診断を受診しなかった場合は、各自が医療機関で健康診断を受診していること）。
- ・教育実習Ⅰの実施年度（原則3年次）の「教育実習事前・事後指導（幼）」に出席していること。ただし、遅刻、欠席をせざるを得ない場合は、授業開始前までに担当教員に連絡すること。
- ・教育実習Ⅰの実施年度（原則3年次）の前期終了時までには、次の科目の単位を全て修得済みであること。

幼児教育原理

幼児教育課程論

教師論

モンテッソーリ指導法Ⅰ

幼児と人間関係

幼児と言葉

幼児と音楽表現

##### ○教育実習Ⅱの履修資格

- ・教育実習Ⅰの単位を修得していること。
- ・セメスターごとに「履修カルテ」を作成し、必要書類を締め切り日までに提出していること。
- ・新年度の新入生／在学生オリエンテーションにすべて参加していること。
- ・教育実習Ⅱを実施する年度当初に実施される学内の健康診断を受診していること（学内の健康診断を受診しなかった場合は、各自が医療機関で健康診断を受診していること）。
- ・教育実習Ⅱの実習園内諾交渉前に、専任教員による教育実習事前面接を受けていること。

### 3 実習内容

- ① 教育実習事前指導（幼）（講話、幼稚園見学、模擬保育等）
- ② 実習園における実習 オリエンテーション → 教育実習
- ③ 教育実習事後指導（幼）（実習報告、講話等）

### 4 教育実習の時期・期間

期間は原則として

教育実習Ⅰ（幼） 3年次9月、

教育実習Ⅱ（幼） 3年次2月

ともに連続する2週間（平日10日間）とする。

なお、中高の教育実習や履修状況、実習先の園の都合などにより、時期は変動する可能性がある。

### 5 実習方法

- ① 教育実習事前事後指導（幼） （1単位・必修科目）
- ② 教育実習Ⅰ（幼） （2単位・必修科目）…観察実習・参加実習・指導実習（部分）
- ③ 教育実習Ⅱ（幼） （2単位・必修科目）…観察実習・参加実習・指導実習（部分・半日・全日）

※実習の概要 （実習時期は変動する可能性がある。）

	単位		実習時期・期間		実習方法
	1	必修	3年次		
教育実習事前事後指導	1	必修	3年次		
教育実習Ⅰ	2	必修	3年次 9月	2週間 平日10日間	・観察実習
					・参加実習
					・指導実習（部分）
教育実習Ⅱ	2	必修	3年次 2月	2週間 平日10日間	・観察実習
					・参加実習
					・指導実習（部分・半日・全日等）

### 6 実習施設の選定

教育実習Ⅰ（幼）では原則として、本学との実習協力園の中から教員が配属する。

教育実習Ⅱ（幼）では、教育実習Ⅰ（幼）での経験を踏まえ、母園や就職希望園など、実習生が自ら交渉して実習園を選ぶ。

### 7 単位認定

前項で示した教育実習の内容に基づき、実習園による評価をもとに、大学での実習事後面接と合わせて総合的に評価し、単位認定をする。

## (2) 幼稚園教育実習の意義と目的

---

文部科学省が示す「教職課程コアカリキュラム」(教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会「教職課程コアカリキュラム」2017年)では、教育実習の全体目標が次のようにあげられている。

教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。

一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につける。

これを踏まえつつ、幼稚園教諭になるための学びの過程において、教育実習が必要とされる理由を、保育実践の特質から考えてみたい。

保育実践は、子ども同士、子どもと保育者、周囲の環境、状況等様々な要因が複雑に関わっており、その意味は多様であり、曖昧でもある。「保育に正解はない」といわれるのは、その時、その場、その関係性の中でのみ引き起こされ、全く同じ現象が繰り返されることのない保育実践の特性を表すものである。

幼稚園での教育実習は、保育実践の中に身を置いたり様々な子どもの姿に触れたりする中で、具体的な場面からその意味を問いかけ、大学で学んだことを当てはめてみたり、試してみたり、そのずれを体感したりしつつ、自分なりに振り返り、実習指導の保育者等との対話や指導を通して、省察を積み重ね、体験的・総合的に学びを深めていくものである。このように大学で学んだ理論や技術と、保育現場での実践を往還させながら、保育者に必要とされる資質や専門性を向上させていくものであり、その過程で自分の課題や適性に向き合うことも求められる。

今回の幼稚園における教育実習の主な目的は次の通りである。

---

### ① 子どもとともに生活し、具体的な場面を通して、子どもをよく観察し、理解し、教育者としての愛情や使命感を深める。

子どもを知るということは、幼児期の発達の特性、大人とは違った概念、想像力、発想力といった幼児期の特性について知る、一人ひとりの個性の違いを知る、子どもの感じ方、見方、行動の違い、興味・関心とその示し方の違いについて知るなどさまざまである。大学で理論として学んできた子ども像が、実像として感情を伴って様々な動く姿をしっかりと感じて欲しい。一人ひとりの子どもを理解するためには、子どもとともに生活し、様々な具体的な場面を通して、遊びの面白さを共有したり、気持ちに寄り添ったりする姿勢が大切である。子どもの行動には一つ一つ意味がある。それを理解しようとするその心持ちは、自らの子どもへの愛情や使命感を深めていくことにも大きく関わる。

また、子どもと接する体験を通して、今まで気づかなかった自分の特性や可能性を見つける。そのため

には、自分をできるだけ客観的に見つめることで、自省し、明日のありようを考えることが大切である。それは保育者にとって日常的な営みであるが、短期間の実習ではなおさら「省察」が必要である。真剣に生きている子どもと、その子どもと真剣に向き合っている保育者のいる世界で、学ぶ意欲のない実習生は困る。「やる気のない実習生は来てほしくない」「本当に将来保育者となる人だけ来てほしい」と言われないためにも、自分自身を見つめて、真摯な態度で実習に挑まなければならない。実習は、各自が抱えている課題を、実践を通して明確にし、その解決に向かって学習する場である。このような日々の「省察」を積み重ねることで、自己実現を図る。

---

## ② 具体的な保育実践を通して、大学で学んでいる幼児教育についての知識や理論、保育の技能や技術を体験的・総合的に理解し、実践的に応用する力をつける。

保育現場では、子どもの興味や関心、育ち、子どもを取り巻く様々な状況を理解したうえで保育を実践していくことが求められる。子どもの主体的な活動として遊びや環境を通して行う保育が子どもの育ちに有効であることが認識されるようになり、子どもの実際の姿を踏まえた保育がより重要となっている。

①でも述べたように、まず子どもを理解し、その姿からどんな経験が必要かを問い、大学で学んだ様々な理論や技能を当てはめたり、試してみたり、振り返ったりしながら実践してみよう。そして、豊かな経験と理論に支えられた実習園の保育者の指導を受けながら、保育に必要な知識や技術を体験的・総合的に理解していくことが極めて重要である。

保育内容・指導内容についてたえず研究（準備）しなくてはならない。子どもにとってよりふさわしい経験とは何か、より適切な教材とは何かなど、たえず自問し、検討していくことが求められている。日々の実践の中で、不足している部分を自省し、より良いものを考えていくという習慣をつけていく。

---

## ③ 幼稚園及び幼稚園教諭の責務、社会的役割や意義を体感し、幼稚園教諭志望者としての自覚と意欲を高める。

教育・保育は「支援職」であり、関わりの仕事ともいわれる。支援とは、需要、容認、共感、見守る、待つなどいろいろである。子どものありのままを受け止め、子どもの伸びようとする力や成長を信じ臨機応変に対応し、子どもの心の動きに沿いながら、心の響きを「聴く」ことの大切さを学ぶ。

実習を通して、保育者が子どもの前で、あるいは子どもの見ていないところで、どのような活動を行っているかについての理解を深める。そのためには、担当保育者の指導のもと多様な活動に積極的に参加し、個人として、集団としてどのような関わりが大切かについて理解を深め、今後の糧とする。

実習は社会の中に入って行う学びである。従って実習生には「幼稚園の一員」「社会の一員」という自覚が要求される。幼稚園には保育者や子どもだけでなく保護者や外来者等がおられ、そこには、多様で複雑な人間関係のネットワークが築かれている。短期間とはいえ、その社会に入り、社会の一員になることは大いに意義がある。従って、言葉づかい、挨拶、服装などすべての面において、責任ある行動が求められる。

急激な社会情勢の変化に伴い、幼稚園等保育施設の有り様と社会的責任、ニーズも大きく変わってきている。実習を通して、それらの状況にも関心を向けるようになって欲しい。

### (3) 幼稚園教育実習の内容

---

#### ○オリエンテーション

事前に幼稚園を訪問し、園の概要や施設設備、教育目標や保育内容、デイリープログラムなどを理解する。実習の注意事項や安全面の配慮すべき点をよく聴き、実習へ向けての準備をしておくことが大切である。そして、自覚ある謙虚な態度で取り組むことが求められる。

#### ○観察実習

配属クラスの子どもたちとともに生活するなかで、幼稚園教諭の職務や環境の構成、指導のあり方や保育の内容、園児たち一人ひとりの様子やかかわりの様子など観察する。保育中に会った子どもたちとのエピソードや気づきなどは、保育活動の流れのなかで適宜記録する。

#### ○参加実習

参加実習はできるだけ積極的に子どもとかかわって遊ぶことを心がける。しかし、参加実習中は、基本的にクラスの担任の先生が計画した保育にしがっているということを常に意識しておく必要がある。実習生の積極性と張り切り過ぎとの違いに注意すること。

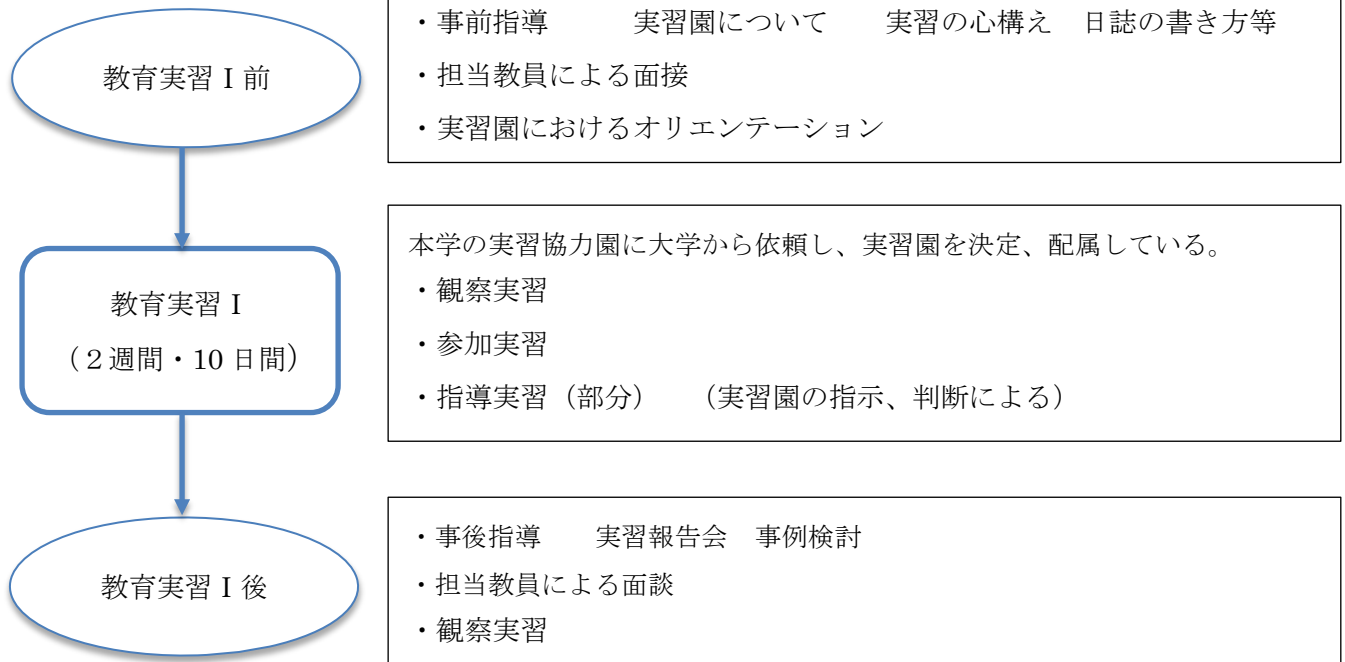
#### ○指導実習

指導実習には、部分指導と半日指導、全日指導等がある。指導実習が参加実習と違う点は、実習生が指導案を立てたり、環境を構成したり、評価したりするところにある。ただし、幼稚園にはそれぞれ独自の教育目標や教育方針があり、長期的な教育課程に基づいて保育が展開されていることを見逃してはならない。指導に当たっては、保育者の意図と子どもの主体性のバランスを大切にすることが必要である。それが崩れると、よい実践、よい学びはありえない。真摯な態度で、精一杯力を尽くしてほしい。

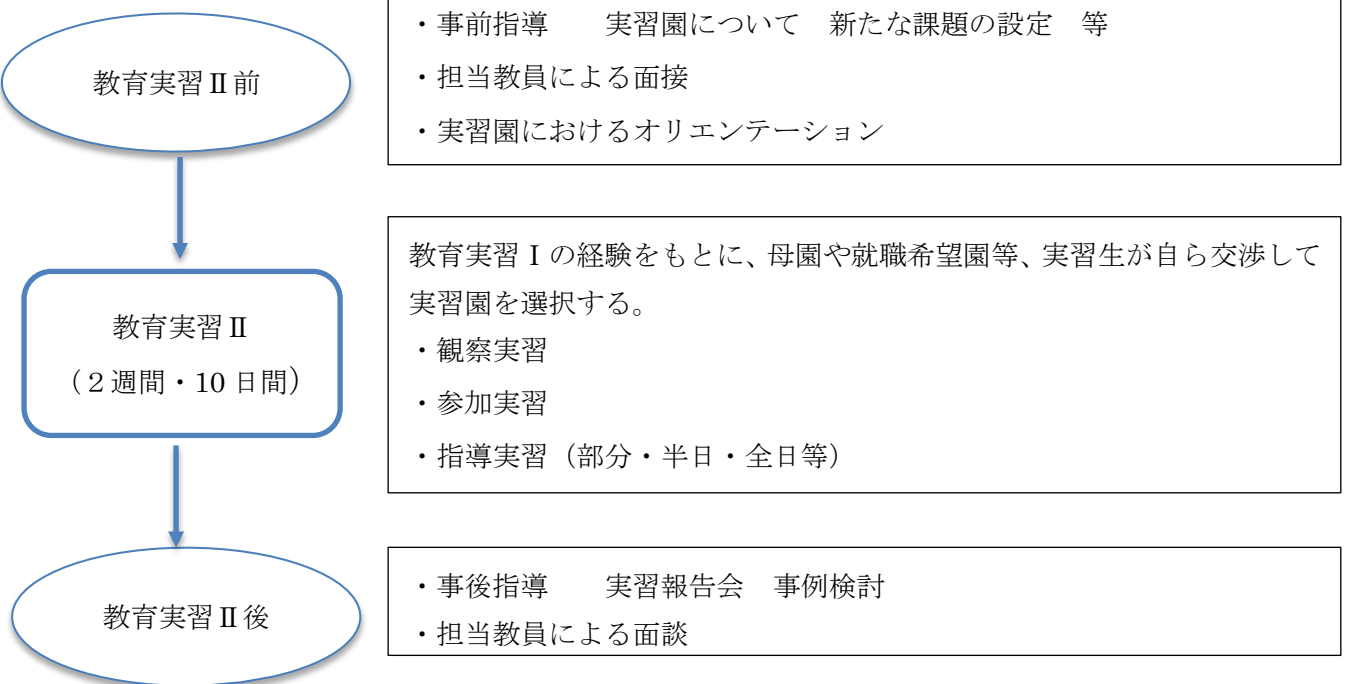
## (4) 幼稚園教育実習 I・II の過程

本学では、教育実習を、教育実習I（主に3年次9月）、教育実習II（主に3年次2月）として行い、ともに連続する2週間（平日10日間）としている。過程は次の通りである。

### 教育実習 I



### 教育実習 II





## (5) 実習記録について

---

### 1 実習記録の内容 (実習ファイルに綴じるもの)

- ① 実習幼稚園の現況
- ② 実習日誌 A クラスのねらい、実習の課題 保育と実習の記録  
B 保育と実習の記録 (1~3 枚)  
C その日の実習について まとめ、反省、気づきなど
- ③ 指導案
- ④ 幼稚園教育実習 I・IIを終えて

### 2 実習記録とは

教育実習において調べたこと、観察したこと、自分が今までの学びをもとにしながら幼児の前で話したり、動いたりしたこと、働きかけたりしたこと、幼児の反応等について記録を取っておく必要がある。観察力は保育のスキルのうちでも大切な力であるが、視点を決めて振り返ることで、今その子どもが何を感じているのか、何が育とうとしているのか、どのような経験が必要なのかをより深くとらえ、適切な対応をすることができるようになる。また、保育者の実践についてもよく観察し、その援助の意図や意味を読み取ろうとすることで多くのことを学ぶことができる。保育の実践や幼児との対応力を試す実習の中でも、PDCA サイクルを活かし、自己の保育の力を改善していくためには、うまくいかなかったことを省察の中で見出し、改善していくことが大切である。

形式的で表面的な記録では意味がない。園のためでもなく、大学のためでもなく、保育者としての自己の成長のために書くものである。「書かされる」のではなく、その目的を踏まえながら主体的に取り組んで欲しい。

### 3 「実習幼稚園の現況」の記入

実習に行くことが決まった時から、実習する幼稚園について事前に調べておく必要がある。正しい法人名、園名、園長名、住所、アクセス、幼稚園がある地域の実態などはもちろんのこと、とくに幼稚園の教育目標、教育方針、保育の特徴、などについてよく理解しておく。特色ある保育方法である場合には、事前にその保育についてよく調べ、園の教育方針に合わせた保育者としての態度について準備しておかねばならない。「実習幼稚園の現況」の用紙に記入し、ファイルの1枚目に綴じておく。

### 4 幼稚園での実習オリエンテーション

実習が近づいたら、幼稚園に連絡し、アポイントメントを取ってから実習園に伺い、幼稚園での実習の受け方についてオリエンテーションを受ける。実習生としての心得や、自分の配属されるクラスや、幼稚園としての決まり事、日誌や指導案の提出方法などの説明は、注意深く聞き、メモを取る必要がある。特

に、園の安全面に関する配慮については必ず聞いておかねばならない。オリエンテーションでの話の内容は本学の用紙に記録し、実習訪問教員に持っていき、実習時の園への訪問の依頼と共に報告する。

## 5 実習日誌

日誌の記録欄は、実習園の指導に従って記録する。様々な書き方や訂正の方法があるので、指導に合わせて書くことが必要である。本学では実習日誌はABCの3種類の用紙で1セットとなっている。実習が1日終わる度に1セットを記録する。

**A用紙** 担当クラスの本日のねらいを事前に担任保育者に尋ね、記入する。その日のねらいを意識しながら保育に関わることが大切である。本日の実習の課題（特に注意して観察をしたいことや、獲得したい保育力、自分にとっての改善点等）をあらかじめ決め、意識しながら1日を過ごすようにする。子どもの姿、保育者の関わり、環境のもつ意味を自分なりに理解しようとしながら記入していく。

**B用紙** Aの継続紙である。記入する内容や量によっては使用しないこともある。

**C用紙** Cの用紙はその日の実習を通して特に印象に残った内容やエピソードと、そのエピソードの背景や考察について記述することとしている。このエピソード記録を通して、より子ども理解、保育の理解を深めてもらいたい。

このように1日を振り返り、省察し、言語化して記録することを積み重ねることは、保育者としての資質や能力を大きく向上させるものである。

### ※注意点

- ・1日の実習が終わったら、その日か、翌朝1セットを揃えてクリアファイルに入れて提出する。
- ・指導後返却された日誌は、必要ならば訂正して再提出し、実習ファイルに順に入れて保管しておく。
- ・ペンを使用し、見やすく丁寧に書く。訂正する場合は訂正印が必要な場合もある。

## 6 指導案

指導実習の際には、指導案を早めに立案する。子どもの実態をしっかりとらえ、その時期の保育のねらいを踏まえて立案していく。事前にいくつかの保育内容を想定し、教材研究を十分しておくことが必要であり、実際の流れも考えておくことよい。しかし、それに固執することなく、子どもの実態に合わせて柔軟に見直し、担当の保育者と相談しながら保育内容を選び、指導を受け、書き直すことを繰り返す。最後はペン書きで清書したものを提出し、園長先生にも見ていただいたうえで実施する日を迎える。

指導実習は担任以外の保育者の参観がある場合もあり、あとで反省会が行われる場合もある。自分でもフィードバックをしたことを記入しておく必要がある。指導を受けた内容を整理し、自己評価して反省欄に記入する。指導案は日誌とともに再提出する。返却後は、実習ファイルに同日の日誌と一緒に綴じておく。

幼児教育課程論で学んだように指導実習の実施後はPDCAサイクルを用いて次の実践に備えておく。

## 7 「幼稚園教育実習Ⅰ・Ⅱを終えて」の記入

すべての実習日程を終えた後、実習の全体についてまとめ、気づき、反省や省察を行う。実習中に保育者としてどのように成長したか、保育者への抱負などがあってもよい。先生方や子どもたちへの感謝の気持ちを表して実習の最後の締めくくりをする。実習を終えたら必ずすぐに「幼稚園教育実習Ⅰ・Ⅱを終えて」を書き、実習ファイルに、必要な記録を日付順に綴じて整え、園に提出する。園から指定された日に取りに行くか、郵送してもらう。

## 8 実習後面接

返却された実習ファイルは、実習訪問教員に1週間以内に届けておく。その後、実習の評価、今後の課題などについての個人面談を行う

## (6) 実習の心得

---

### 1 基本的な心構え

- ① 実習生活は通常の生活と異なり緊張と疲労を伴うものであるから、日頃から体調を整え、健康に留意しておくこと。
- ② 実習は、本学の教育課程の総合化もいえるものであるから、日頃の学修を怠ることなく、実習に先だってこれまでに学んだことを十分に整理しておくこと。
- ③ 繰り返し行われる実習の中で自分自身の課題を見つけ、日頃の学修において、常に問題意識を持って課題に取り組むこと。

### 2 実習態度について

- ① 実習期間中は、本学の学生であるという自覚をもって、実習園規則と職員の指示をもとに、良識ある真摯な態度で実習にあたること。
- ② あらゆる面に意欲的、積極的に取り組み、実習の成果を十分にあげるよう努力すること。
- ③ 実習生は、指導を受ける立場であると同時に、子どもや保護者にとっては保育者であることを忘れずに、その立場にふさわしい言葉遣い、礼儀作法、生活態度で実習に当たること。
- ④ 実習生にとっては、職員すべてが指導者であるということを忘れず、どの職員にも素直な謙虚な態度で接すること。特定の職員と個別的に接することや職員間のチームワークを乱すような言動は避けること。
- ⑤ わからないことはそのままにせず、職員に積極的に質問し、その指示に従って行動すること。
- ⑥ 自分勝手に判断して間違った行動をしないよう言動を慎むこと。

### 3 出・退勤について

- ① 定刻 30 分前には出勤し、直ちに出勤簿に押印すること。
- ② やむをえず欠勤、遅刻、早退などしなければならない時は、本人が実習担当の先生に迅速にその旨を連絡し、同時に大学にも連絡すること。
- ③ 出勤時は、原則、スーツを着用する。園の指示がある場合は、それに従うこと。
- ④ 退勤時は、園（施設）長または実習担当の先生に挨拶をする。帰宅までが実習であることを意識すること。

### 4 食事と体調管理

- ① 体調管理（早起き、早寝、朝食、手洗い、うがいなど）には十分に気をつけること。
- ② 毎日弁当を持参すること。
- ③ 園（施設）外の食堂・自動販売機等は使用しないこと。

### 5 服装

- ① 保育中は、体操着、エプロン又はスモック着用。園の指示がある場合は、それに従うこと。
- ② 夏季は水遊びなどがあるので、濡れてもよい服（Tシャツ、短パンなど）。

- ③ 上靴、下靴（運動靴）を持っていく。かかとの高いものや、短いものは使用しないこと。
- ④ 幼児の目に入って危険な場合もあるため、長い髪は結ぶこと。
- ⑤ 茶髪、指輪、ピアスなどのアクセサリ類、マニキュアなども一切禁止。

## 6 更衣

- ① 更衣は定められたところで行うこと。
- ② 保育の邪魔になるため、持参の荷物は必要最小限にとどめておくこと。
- ③ 貴重品の管理をすること。

## 7 携帯品

- ・ テキスト『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』
- ・ 冊子（『幼稚園教職課程履修の手引き』『実習日誌』など）
- ・ 印鑑
- ・ 筆記用具
- ・ 観察記録用のメモ帳
- ・ 弁当・コップ・箸（スプーン不可）・歯ブラシ
- ・ 名札・帽子・エプロン又はスモック（華美でないもの）
- ・ 保育中は携帯電話等の携帯、使用は不可

## 8 掃除、後始末

- ① 自分が使用したあとは、後始末、掃除を常に心がけること。
- ② 掃除は、保育のための環境構成の一つと考えること。
- ③ 掃除終了後は実習担当の先生に報告すること。

## 9 提出物

- ① 実習日誌は、毎朝、実習担当者または担任に提出すること。
- ② 提出期限が守れない場合は、必ずその旨を迅速に実習担当者に連絡すること。

## 10 実習中の諸注意

- ① 子どもたちの名前を早く覚えること。
- ② 初めての顔合わせのときのために、自己紹介を考えておくこと。
- ③ 出勤や退出のときは、明るくあいさつをする。なお、保護者の方、業者の方にも、あいさつを忘れない。
- ④ 常にハウレンソウ（報告・連絡・相談）を心がけること。
- ⑤ 子どものけが、おもらし、病気は速やかに実習担当者に連絡すること。
- ⑥ 職員室に用事があるときの礼儀を忘れない。職員室に入るときは、担当クラス、氏名および用件をはっきりのべること。
- ⑦ 日誌などを提出する際には、上着を着たままであったり、肩に荷物をさげたままにしたりせず、要らない荷物は置いて、両手できちんと渡すようにすること。

- ⑧ 実習担当の先生からの注意には素直に返事をし、それを受け入れる。
- ⑨ 与えられた仕事は最後まで責任を持って行い、終わった後は必ず報告すること。
- ⑩ 紙芝居、CDなど教材を借りたい時は実習担当の先生に必ず相談すること。

## 11 子どもの人権

- ① いかなる場合でも懲戒・体罰を与えてはならない。
- ② 園や施設で知り得た職務上の秘密は守らなければいけない（守秘義務）。
- ③ 子どもの人格を尊重し、どの子どもにも公平な誠意ある態度で接すること。特定の子どもにだけ私物を与えたりしない。
- ④ 子どものプライバシー（個人的情報）は絶対に守ること。帰りのバス・電車などで子どもの話をしたり、勝手に写真などを撮ったりしない。
- ⑤ 園からの配布資料は決して捨ててはならない。責任を持って自己管理すること。

## (7) 幼稚園教諭一種免許取得までのスケジュール

月	全体スケジュール	
毎年次 ※1	4月	・「幼教オリエンテーション」に出席 ・健康診断受診(大学にて集団検診)
	5月 学期末	・麻疹・風疹の抗体検査受検(1年次) ・每学期終了後「履修カルテ」を作成、提出
2年次	7月	・実習事前説明会 (全体スケジュール)
		「教育実習Ⅰ」スケジュール
		「教育実習Ⅱ」スケジュール
	9月	・事前説明会 (「教育実習Ⅰ」)
	10月	・実習希望調査提出※2
	10月	・内諾交渉・園訪問※3
	11月	・事前説明会 (「教育実習Ⅱ」)
	12月	・内諾交渉・実習園決定
3年次	4月	・「教育実習事前事後指導」開始
	6月	・実習園オリエンテーション ・実習費納入
	7月	・事前面接(大学担当教員)
	9月	・「教育実習Ⅰ」(2週間)
	10月	・実習ノート提出と返却 ・礼状作成・発送 ・事後面接(担当教員)
	12月	・実習園オリエンテーション ・実習費納入
	1月	・事前面接(大学担当教員)
	2月	・「教育実習Ⅱ」(2週間) ・実習ノート提出と返却 ・礼状作成・発送
4年次	4月	・事後面接(担当教員)
	6月	・各市町村就職希望者登録開始※4
	9月	・「教職実践演習」履修登録 ・「教育実習事前事後指導」履修登録
	11月	・教員免許状申請手続き(一括申請)に関する説明会
	卒業時	・幼稚園教諭一種免許状交付(広島県教育委員会)

※1 原則として毎学年次で行う。(抗体検査受検は1年次のみ)

※2 実習園の状況等により、4年次前期でも可能。

夏期休業、帰省時などを利用して希望園を決め、大学に提出。

※3 広島県保育・教育実習連絡協議会后、交渉開始。(10月初旬)

※4 各市町村によって実施の有無、期間、方法は異なる。

## 4. 付録（書式一覧）

- (1) 実習日誌
- (2) 指導案
- (3) 履修カルテ
- (4) 自己評価シート



月 日 ( ) (第 日目)	天気	組	歳児クラス ( 人/ 人中) 出席
本日のクラスのねらい			
実習の課題			
時 刻	環境構成と子どもの活動の様子	保育者のかかわり ・ 実習生のかかわり	
		⋮	

時 刻	環境構成と子どもの活動の様子	保育者のかかわり ・ 実習生のかかわり
		!

エピソード記録 出来事の背景やその詳細/具体、考察や疑問など

---

本日の実習を通して学んだこと・感想・反省・疑問・気づき・指導を受けた事項・明日の課題など

---

指導教諭講評

時 刻	環境構成と子どもの活動の様子	保育者のかかわり ・ 実習生のかかわり

実習日誌・実習の記録 B

指 導 案		部分実習	半日実習	全日実習
月 日 ( 曜日)		組	歳児 名	(計 名)
天 候			歳児 名	
			歳児 名	
子どもの姿				
中心となる活動				
ね ら い				
時間	環境構成	予想される子どもの活動	保育者（実習生）の援助・留意点	

時間	環境構成	予想される子どもの活動	保育者（実習生）の援助・留意点

時間	環境構成	予想される子どもの活動	保育者（実習生）の援助・留意点
実習後 の 感想 反省			
指導者 の 助言	指導担当教諭（ ）		

令和 年度 履修カルテ (教育職員免許状施行規則第 66 条の 6 に定める科目) ( ) 年次, 専攻名: \_\_\_\_\_, 氏名:

授業科目名〔担当教員名〕	自己評価 (学んだこと, 自己成長, 実践に活かしたいこと等)	今後の課題

授業科目名〔担当教員名〕	自己評価 (学んだこと, 自己成長, 実践に活かしたいこと等)	今後の課題



令和 年度 履修カルテ (教育の基礎的理解に関する科目等B)

( ) 年次, 専攻名: \_\_\_\_\_, 氏名: \_\_\_\_\_

授業科目名〔担当教員名〕	自己評価 (学んだこと, 自己成長, 実践に活かしたいこと等)	今後の課題

授業科目名〔担当教員名〕	自己評価 (学んだこと, 自己成長, 実践に活かしたいこと等)	今後の課題

項目	到達目標	質問項目	自己診断			
			1年	2年	3年	4年
①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項	教育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、共に成長しようとする姿勢が身に付いている	誠実、公平かつ責任感を持って幼児に接し、幼児から学び、共に成長しようとする意識を持って、指導に当たることができるか				
	高い倫理観と規範意識、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の責務を果たすことができる	教員の使命や職務についての基本的な理解に基づき、自発的・積極的に自己の職責を果たそうとする姿勢を持っているか				
	幼児の成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動することができる	自己の課題を認識し、その解決に向けて自己研鑽に励むなど、常に学び続けるようとする姿勢を持っているか				
	教員としての職責や義務への自覚に基づき、目的や状況に応じた適切な言動をとることができる	幼児の成長や安全、健康管理に配慮する姿勢を常に持ち、適切に行動しようとすることができるか				
②社会性や対人関係能力に関する事項	組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行することができる	教員としての職責や義務への自覚をもち、挨拶や服装、言葉遣い、他の教職員への対応、保護者に対する接し方などの基本が身に付いているか				
	保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができる	他の教職員の意見やアパイスに耳を傾けるとともに、理解や協力を得ながら、目らの職務を遂行することができるか				
	幼児に対して公平かつ受容的な態度で接し、豊かな人間的交流を行うことができる	幼稚園組織の一員として、独善的にならず、協調性や柔軟性を持って、園の運営にあたることことができるか				
③幼児理解や学級運営に関する事項	幼児の発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができる	保護者や地域の関係者の意見・要望に耳を傾けるとともに、連携・協力しながら、課題に対処することができるか				
	幼児との間に信頼関係を築き、学級集団を把握して、規律ある学級運営を行うことができる	笑顔で幼児と顔を合わせたり、温かく相談に乗ったりするなど、親しみを持った態度で接することができるか				
	幼児の発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができる	幼児の声を真摯に受け止め、公平かつ受容的な態度で接することができるか				
④保育内容の指導力に関する事項	幼児の発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができる	一人ひとりの幼児の健康状態や性格、生育歴等を理解し、そこから適切な対応を考え、実行することができるか				
	幼児との間に信頼関係を築き、学級集団を把握して、規律ある学級運営を行うことができる	社会状況や時代の変化に伴い生じる新たな課題や幼児の変化を、進んで捉えようとする姿勢を持っているか				
	幼児の発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができる	自ら主体的に教材研究を行うとともに、それを活かした指導計画を構想することができるか				